NOW IS.

宮城は現在(いま)も
現実(いま)に
立ち向かう。

Vol. 15
July, 2017
ナウイズ
毎月11日発行

パンサー in 東松島

撮影地：旧野蒜(のびる)駅プラットホーム

a walk this town!

この街の“今”を探索

東松島市震災復興伝承館

旧JR野蒜駅の駅舎を活用し、津波の被害や教訓を紹介する震災復興伝承館が平成28年10月1日に完成。現在、周辺一帯は、震災遺構として保存されるプラットフォームを含め震災復興メモリアルパークとして整備が進められています。

アグリードなるせ「NOBICO(のびこ)」

6次産業化や雇用の場の確保に取り組む農業生産法人アグリードなるせの農産物処理加工施設が、平成27年7月に完成。自社栽培した小麦の製粉やお米の精米などを行い、それらを使った焼菓子などの商品も販売しています。

東松島市立宮野森小学校

平成28年4月に宮戸小学校と野蒜小学校が統合した宮野森小学校は、平成28年12月20日、高台に新校舎が完成。「森の学校」がコンセプトで、スギやヒノキなど約5,000本の無垢材が使われ、木のぬくもりある校舎となっています。

のりうどん

皇室御献上の品質を誇る大曲浜の海苔を粉末状にして生地に練りこんだのりうどんは、海苔の風味と香りがよく強いコシが特徴。「ちゃんこ萩乃井」を営む元力士の店主と、海苔漁師が共同で開発しました。

宮戸地区復興再生多目的施設（セルコホームあおみな）

宮戸地区に復興再生多目的施設として、平成29年4月15日に完成。大型ビニールハウス、木造2階の宿泊・体験施設、農林水産業体験施設のほか、特産品の売店や遊覧船待合所もあり、観光振興の拠点として期待が高まっています。

東松島市野蒜地区（野蒜駅からの眺望）

思い出をたどり、あしたへの芽吹きを知る。パンサーの3人と東松島市へ。

今は草が生えるばかり 少年の思い出の場所へ

夏、草生した旧野蒜（のびる）駅。震災当時に貼られていたポスターが、今も新幹線はやぶさの開通を祝っています。

「そう、このホーム。毎日ここから電車に乗って、サッカーの練習に通ってたんです。懐かしいなあ…」。お笑い芸人、パンサーの尾形貴弘さんは、東松島市の野蒜出身。両親が暮らす実家は、旧野蒜駅からほど近い住宅地にありました。「ちょうど、あのあたりにありました」と更地の一角を指さします。「東京で津波のニュースを聞いて、ああ、両親はもうダメだな、と思いました」。東松島市を襲った津波は住宅をのみ込み、死者・行方不明者は千人を越えました。「父は津波にのまれたものの、流れてきた屋根に上って助かりました。母も避難所で無事でした」。まさか、自分が住んでいたところが、と信じられない思いだったそうです。「トロフィーも卒業証書も、何一つ残っていません。見つかったのは、庭の飾り石ひとつだけ」。震災後取り壊された母校の跡地にも足を運びました。「あの丘、覚えてる。あそこで悪い人たちが学校さぼったりね」。

「東京にいると、被災地のことをニュースで見る機会も少なくなって。どんな現状なのか、自分の目で見るまで分かりませんでした」と話すのは、パンサーの向井慧さん。「まだ全然、何にもないんだあ」と、風にゆれる草地を見つめました。

月浜海水浴場

昨年よりも整備が進み、より美しい姿に。「岩場から飛び込めるんですよ！」と尾形さん。

東松島市震災復興伝承館

震災当時の映像を見る3人。生々しい証言に言葉を詰まらせます。

アグリードなるせ

安部社長のすすめで、東松島産の素材で作られた「のびるバウム」や地ビールを。あまりのおいしさに感嘆の声が。

時間をかけてじっくり 頑張る東松島を応援

農業生産法人「アグリードなるせ」では、バームクーヘンの工場を見学しました。「東松島でできた素材で、名物になるようなものを作りたいと思ってるんです。小麦の栽培も増やしてますよ」という社長の言葉に「すごい行動力！」と感心する尾形さん。「宮野森小学校」では、尾形さんの同級生のお子さんにも出会い「地元で頑張って働いているんだなあ」と感慨深げ。

旅の最後は、子どもの頃、夏休みに毎日通ったという月浜海岸へ。真っ青な海が出迎えてくれました。「うわあ、きれいすぎる！うらやましい子ども時代だな！」と向井さん。尾形さんは、どことなく自慢気です。「山があって、川があって、こんなにきれいな海があって。東松島のふるさと復興大使として、こんなにいい場所なんだっていうのをピシッと伝えないと」。尾形さんは浜を歩きながら、そう話します。うんうん、とうなずく菅良太郎さん。「家が建って、あんないい学校が建って、少しずつ良くなってる。ふるさとって、たかだが6年やそこらでできあがるもんじゃないからね」。

「今日、地元の人たちが頑張っている姿をたくさん見た。自分も負けないようにがんばらないとね」と尾形さん。「みんな、遊びに来てほしいですね」と笑顔で話してくれました。

沼田佐和子

東松島市立宮野森小学校

校舎・体育館ともに東北の木材を使用した新しい小学校。「子どもたちが元気だとうれしい」と尾形さんは目を細めます。

PROFILE

パンサー

平成20年に尾形貴弘、菅良太郎、向井慧の3人で結成されたお笑いトリオ。東日本大震災の被災地支援チャリティーイベント『smile bazar』などにも精力的に出演。メンバーの尾形は東松島市野蒜出身で、平成29年「東松島ふるさと復興大使」に就任。

おれも頑張らないと。ここから、次へ。

尾形さんが通った鳴瀬第二中学校があった場所で

Support Power

PROFILE

東松島市 復興政策部 復興都市計画課 都市整備班

宮本 敬士（みやもと たかし）さん

平成28年4月から
熊本市より東松島市に派遣

the 応援職員

NOW IS. 東松島 HIGASHIMATSUSHIMA

スピード感を持って復興に携わりたい。

大曲浜地区市街地

「地盤がかさ上げされ、電柱や側溝が整備されて街の雰囲気ができ上っていくところを見ると、やりがいを感じますね」そう話す宮本さんは、平成28年に派遣職員として熊本市からやってきました。熊本市は、東日本大震災当初から東松島市に職員を派遣していて、「希望を出してから5年でやっと来ることができた」と話します。

熊本市では、都市建設局の熊本駅前周辺整備事務所に所属し、区画整理や都市再生整備事業を行っていました。九州新幹線鹿児島ルートの全線開通に伴い、熊本市では、拠点性を高めるために、新幹線の発着駅である熊本駅周辺地域を一体的に整備する計画が進められています。これまでの経験を、東松島市のために活かせたらと思い派遣に志願しました。

現在、宮本さんの担当は、大曲浜地区市街地の土地区画整理事業。大曲浜の市街地は、住宅の建築が禁止・制限される災害危険区域の指定により集団移転が進められました。移転元地を集約して利活用すべく、産業用地としての整備を進めています。工事の監督業務や、整備後の用地を使用する事業者との引き渡し調整が主な業務です。「土地の状況により、かさ上げしてもまた沈下するなど、地盤が落ちつくまで時間がかかってしまい、引き渡しの調整に苦労しています」。

東松島市に来てすぐの平成28年4月14日、熊本地震が発生。住民の避難所対応や被災した熊本駅前周辺整備事務所の移転作業を手伝った宮本さんは、2カ月後に東松島市に戻りました。「住民の方と話す機会があり、熊本から来ていることが分かると心配してくださるんです。そんなあたたかい皆さんのためにも、迅速に業務を進め、復興がより進むようにしたいと気持ちが引き締まりました」。

「熊本市は地震の影響による地盤沈下が起こり、建物の傾きを直すなどの復旧活動が現在も行われています。今後、熊本に戻った際には、東松島市での経験を活かせたらいいなと思っています」。

info/area

{エリア情報} 復興や防災にまつわるニュースをお伝えします

第95回鳴瀬流灯花火大会

夏の鳴瀬川に色鮮やかな約1,000発の花火が大輪の花を咲かせます。先祖代々の霊と、震災で亡くなった方々を供養するための流し灯籠を鳴瀬川に浮かべ、川面を彩ります。

- 日時：平成29年8月16日（水）
  18時30分～20時30分（花火打ち上げ20時～）
- 場所：国道45号鳴瀬大橋近く・鳴瀬川左岸河川敷
- 主催：東松島市鳴瀬流灯保存会

☎ 0225-87-2322（東松島市観光物産協会）

東松島夏まつり2017

「みんなで創ろう！日本一の東松島ブルー物語」
東松島市の魅力である青空に舞う航空自衛隊のブルーインパルス、たくさんの海の幸。今年の東松島夏まつりは、「青」をテーマに東松島の魅力を楽しむことができます。復興が進む東松島の街並みをぜひ楽しんでください。

- 日時：8月26日（土）10時30分～（予定）
- 場所：矢本・大町通り商店街通り（東松島市商工会～蔵しっくパーク周辺）

☎ 0225-82-2088（東松島市商工会）
URL：http://www.higamatu.miyagi-fsci.or.jp/nm2017/

今月のガイド

有限会社アグリードなるせ
代表取締役

安部 俊郎（あべ としろう）さん

米や麦、野菜などの生産・販売を行うほか、生産した農産物を加工・販売する6次産業化の取り組みを行っている安部さん。

震災では、農地や農業機械などが被災しましたが、地域の住民等と協力し田畑の復旧・除塩を行い、震災の年の秋には高品質な米（一等米）を収穫することができました。

また、離農した農家の土地を引き受けて作付面積を増やすことや、高齢者のデイサービス施設を運営することで、新たな雇用も生み出しています。デイサービス施設では、地域の人たちの交流の場も提供したいと考えています。

「こだわりのあるものづくりはもちろん、どんなことにも挑戦し、地域に貢献したいと思っています」。

記者の視点

筆者プロフィール

河北新報社石巻総局

水野 良将（みずの よしまさ）さん

1980年生まれ、埼玉県出身、
2003年入社、石巻総局

宮戸の食堂の味わいとあたたかみ　胸に刻む

宮戸島のげんちゃんハウス

「店じまいから3カ月がたった今でも、真心のこもった味が忘れられない。

東日本大震災からの復興途上にある東松島市宮戸島で3月下旬、食堂「げんちゃんハウス」が閉店した。津波で民宿を失った女性らが切り盛りした。

震災翌年の平成24年11月、被災した奥松島縄文村歴史資料館の施設を改修して開店。スタッフの一人だった小峰千栄さん（67）は「最初はお客さんが来なかったらどうしよう、と心配していました」と明かす。

コンセプトは「安くておいしいものを」。当初のメニューは500円のしょうゆラーメンなど数種類だった。客の「おいしい」を励みに工夫を重ね、宮戸産カキなどを使った約15種類のメニューを提供した。

最盛期は年間約5000人が来店したが、復旧復興が進むにつれて客が減り、店の維持が難しくなったという。

最終日はしょうゆラーメン100食を100円で販売。地元の高齢者や子ども、観光客らの笑顔が食堂にあふれていた。小峰さんは仲間をねぎらいながら、涙が止まらなかった。

のれんが下りた場に立ち会い、震災発生直後を思い起こした。平成23年3月11日深夜、車で宮城県沿岸部へ向かった。わずかなチョコレートを他の記者と分け合い、避難所で紙コップ1杯分の貴重な水を頂いた。日常の食のありがたみをしみじみ感じた。

奥松島でげんちゃんハウスが振る舞ったぬくもりもきっと、訪れた人の胸に染み込んでいるだろう。

NOW IS. 防災

地域を知って、災害に備えよう！

宮城県各地で行われている防災・減災の取り組みから、日々の備えに生かせるヒントを探していきます。

家の近所やいつも通る道でも、意外と知らないことが多いもの。消火栓や避難所の場所、地域の災害の歴史など、実際に歩くことで気付くことがたくさんあります。さらに、それをマップに整理することで、新たな発見も！町内会や学校、家族で「ぼうさい探検隊」に取り組み、もしもの時に備えましょう！

楽しみながら防災意識を高める“ぼうさい探検隊”

「ぼうさい探検隊」とは、子どもたちが楽しみながら、自分たちが暮らす街にある防災・防犯・交通安全に関する施設や設備などを見て回り、マップにまとめる実践的な安全教育プログラムのこと。防災教育の一環として、日本損害保険協会が平成16年から取り組んでいます。希望する団体や家庭には、実施マニュアルや、まちなか探検・マップ作成に役立つ「実施キット」も無償で提供。

“ぼうさい探検隊”のヒント

1 チェックポイントを設定しよう！

まちなか探検の準備として、災害時に役立つものの場所や使い方、地域の災害の歴史など、チェックポイントを設定すると効果的です。

2 子どもの視点を大切にしよう！

子どもならではの鋭い視点は、防災に役立つ新たな発見につながります。ただし、事故を防止するため、まちなか探検には、必ず大人が同行しましょう。

【取材協力】
一般社団法人 日本損害保険協会 東北支部

藤盛 真由美（ふじもり まゆみ）さん

東北支部にて、防災教育プログラム「ぼうさい探検隊」を担当。まちなか探検のサポートや、プログラムの認知度向上にも取り組む。

〈お知らせ〉

「小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」では作品を募集中！防災、防犯、交通安全などをテーマに「ぼうさい探検隊」で作成したマップを応募してください。詳しくは「ぼうさい探検隊」で検索を。

「東松島食べる通信」は、人を紹介する情報誌。食べ物は、おまけです(笑)

(上)太田さんが手がける「東松島食べる通信」
(最左)「牡蠣を内湾から外洋へ運ぶ作業の光景(2015.11号)」
(左)「霜がおりて、甘みを蓄えるちぢみほうれん草(2016.11号)」

地元の人が地元のことを知る

太田さんが、「東松島食べる通信」を創刊したきっかけは、平成26年2月に発行された「東北食べる通信」。「うちの海苔漁師が特集されてて、かっこよかったんですよ。で、うちのアンテナショップのスタッフに見せたんですよね。喜ぶと思って。そしたら、みんな感動してるんです。それで、"地元の人が、地元の人のことを知るコミュニケーションツールになるんじゃないか"と思って」。

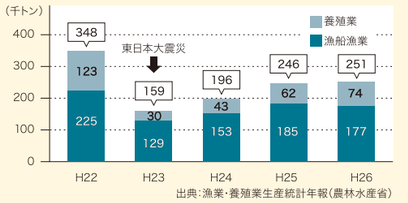
すでにアンテナショップの番頭、そして観光協会の企画専門部会長という二足のわらじを履いていた太田さんですが、「海苔とか牡蠣とか米とか、うちの町でしか作っていないものってないんですよ。どこでも作ってる。でも、例えば、阿部晃也さんが作ってる牡蠣は、ここにしかない。僕は、この東松島市にいる『人』を紹介したいんです。こんなにすごい生産者がいるよ、って。だから、正直言うと、食べ物はおまけみたいなもんです(笑)」。

創刊号は、定置網漁師の大友康広さんが登場。食材は、イワシだった。「自然が相手なもんで、獲れないと食べ物が発送できないんですよ。それに、漁師もプライドがあるから、『こんな小さいのは送れない』って言うしね(笑)。180人くらい申し込んでもらったんですけど、そのうち120人は希望日に送れなかったですね。人によっては8回延期になったこともありました。最終的には、お客さんも『じゃあ、獲れたタイミングでいいよ』とか『そういうことを教えてくれてありがとう』って言ってくれて。まるで資本主義を無視したダイナミックなやり方でしょう?(笑)でも、本来、食べ物ってそういうものじゃないですか」。

東松島市のために日々奔走する太田さんは、実は千葉県出身。東松島市には、震災後のボランティアで来たのがきっかけでした。「本当はボランティアとか無縁の人間だったんですけれど、さすがに『これは何かしなくちゃマズイ』と思って。平成23年の8月に知人が、お祭りの手伝いをするっていうので、そこに自分も参加したんですよ。めちゃくちゃ忙しかったけど、爽快感に包まれてね。一夜明けて、東京に戻ろうと、車で沿岸部を走っていたんです。…そうしたら、まだ壊れた家とかも残っていた景色が衝撃的で、逃げるように帰ってきました。そして、安易な気持ちで行った自分にすごくムカついて。東京に戻ってからもイライラが止まらなかった。だから、まずは1年住んで、何かできることしようって思ったんです」。

こうして、平成23年の11月に移住してから、丸6年。今やすっかり、"東松島の顔"です。「東北は、いい悪いじゃなく、この先も震災の話題って切り離せない。でも、地元のことを笑って話せる人を増やしたいんですよ。地元の自慢を笑って話せる、そういう媒体を作っていきたいです」。

県内の復興の進捗状況:漁業生産量の推移



出典:漁業・養殖業生産統計年報(農林水産省)

PROFILE

東松島食べる通信 編集長
東松島あんてなしょっぷ まちんど 番頭
太田(おおた) 将司(まさし)さん
千葉県出身。東京でインテリア関係の仕事をしていたが、震災後、東松島市に移住。現在、アンテナショップ番頭、観光協会企画専門部会長、「東松島食べる通信」編集長の三役。

NOW IS. vol.15 ナウイズ
発行:平成29年7月11日 宮城県震災復興本部(事務局:震災復興推進課)
〒980-8570 宮城県仙台市青葉区本町3丁目8番1号
Tel:022-211-2443 Fax:022-211-2493
『復興情報発信プロジェクト NOW IS.』は、宮城の復興の「いま」を伝えるプロジェクトです。
宮城県 Miyagi Prefectural Government

INFORMATION from MIYAGI 〔宮城県からのお知らせ〕

01 未来(あした)への道 1000km縦断リレー2017

青森から東京までの東日本大震災の被災地域をランニングと自転車でつなぐイベント「未来(あした)への道 1000km縦断リレー2017」(主催:東京都等)が「復興の地を、走ろう。復興とともに走ろう。未来に向かって走ろう。」をスローガンに開催されます。宮城県内の通過は次のとおりです。皆さまの応援をお願いします。詳しくは、ホームページをご覧ください。

- 7/28 陸前高田市〜南三陸さんさん商店街
- 7/29 南三陸さんさん商店街〜松島町役場
- 7/30 松島町役場〜宮城県庁
- 7/31 宮城県庁〜相馬市

問.県オリンピック・パラリンピック大会推進室
☎.022-211-2416
http://www.1000km.jp/

02 応急仮設住宅の供与期間延長について

下記の対象市町で被災し、応急仮設住宅にお住まいの方のうち、要件に該当する方の供与期間を最長で平成31年3月31日まで延長することが決定しました。延長を希望される方は、被災時にお住まいの市町から送られる案内をご確認ください。

【対象市町】
石巻市、名取市、女川町、気仙沼市※、東松島市※、南三陸町※
(※については下記の要件①に該当の方のみ)

【要件】
①災害公営住宅や防災集団移転など公共事業による自宅の再建先は決まっているが、工期などにより退去できない方
②公共事業以外で自宅の再建は決まっているが、工期などにより退去できない方

問.県震災援護室
☎.022-211-3257

MEDIA INFORMATION

みやぎ復興情報ポータルサイトはコチラから!
http://www.fukkomiyagi.jp

宮城の復興情報を発信する、「みやぎ復興情報ポータルサイト」を公開しています。復興に関するお知らせや復興の進捗状況、復興に向けた取り組みなどをブログで発信します。

最新情報をブログで!

今月のブログピックアップ

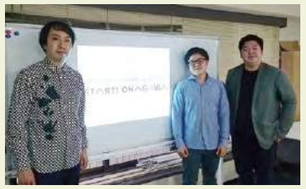
いわたかれん
復興フォト
岩田 華怜

仙台市出身の女優。AKB48を卒業し、被災地の「今」を伝えたいと写真の勉強を始めました。

これまでの被災地訪問は80回を超える岩田さん。「写真」に想いを込めて、月1回被災地の状況を発信しています。今回訪れたのは山元町。海から数百メートルのところにある「旧中浜小学校」を訪れました。

宮城発!
元気と食の最新情報
一般社団法人 IkiZen

震災復興に軸足を置き、被災地の企業の販路開拓や商品開発、広報活動支援などを行っています。



このブログでは、被災地企業や団体のさまざまな取り組みを発信しています。今回は女川で活動するNPO法人アスヘノキボウが主催するイベントを中心に、町外から人を呼び込む取り組みについてご紹介します。

詳しくは、「みやぎ復興情報ポータルサイト」内の「NOW IS.復興レポート」をご覧下さい。

いまを発信!復興みやぎ SNS「いまを発信!復興みやぎ」では、取材チームが見た被災地のいまを発信しています。皆さまからの投稿もお待ちしています。ハッシュタグ「#fukkomiyagi」をつけて、撮影した画像をお寄せください。

取材こぼれ話 Voice from STAFF

仙台きなこシリーズ

有限会社アグリードなるせのバウムクーヘンは編集部内で大人気。甘さ控えめなので、あっという間に食べつくしてしまいました。自家栽培した大豆で作る「野蒜納豆」も大粒で絶品です。そして、震災後に新仙台みやげとして定着している「仙台きなこシリーズ」も実は開発に関わっているのです。このシリーズは「JR東日本『のもの』アワード2017」で大賞を受賞。こだわりの商品たちをぜひ試してみてください。

宮城県の東日本大震災死者数(関連死含む) 10,561人 | 行方不明者数 1,230人 平成29年5月31日現在宮城県危機対策課調べ

Vol. 15
July, 2017
ナウイズ
毎月11日発行

宮城は現在(いま)も
現実(いま)に
立ち向かう。

NOW IS.

地元の自慢
を笑って話せる、そういう媒体を作っていきたい。

東松島食べる通信
太田 将司

「食べる通信」とは、食の生産者を特集した情報誌と、彼らが収穫したり、作った食べものがセットで届く“食べもの付き情報誌”のこと。北は北海道から、南は沖縄まで、全国38カ所で発行されています。

「東松島食べる通信」もそのひとつで、平成26年に創刊されました。創刊号の特集は、定置網漁師。それ以降、農家、海苔漁師、牡蠣漁師、畜産農家などを紹介してきました。

そんな「東松島食べる通信」の編集長を務める太田将司さんは、カメラマン、ライター、デザイナー、編集者と雑誌制作現場で何役もこなしているだけでなく、「東松島あんてなしょっぷ　まちんど」の番頭、そして東松島市観光物産協会の企画専門部会長も務めています。とにかく多忙を極める日々ですが、太田さんは笑ってこう言います。「地元の自慢を笑って話せる、そういう媒体を作っていきたい」と。